

2017年8月26日作成

IS 技術者のための Psytech 研究会 第 2 回会合のご案内

テーマ：パターン・ランゲージ

「IS 技術者のための Psytech 研究会」第 2 回会合を下記のように開催致します。

当研究会は、Psytech を進めていく上で基本となる情報システムモデルをつくることを第一の目標としています。情報システムモデルをつくる有力な方法として、パターン・ランゲージの作成があります。パターン・ランゲージは情報システム分野で、要件定義に先立ち、人間中心の立場で、最上流の要求を整理するツールとして近年非常に注目されています。

パターン・ランゲージについては、慶応大学の井庭崇先生のグループで熱心に取り組み、特に人間の情報行動に関わる分野で実際にいくつもパターン・ランゲージの開発が進められています。

情報システム学会では、すでに井庭先生に、パターン・ランゲージの理論編をご講演頂きましたので、今回 Psytech 研究会として、井庭先生とともに“認知症とともによりよく生きる”ためのパターン・ランゲージの開発を進められた富士通研究所の岡田誠様に、実際にパターン・ランゲージをどのようにつくっていくのかについてご講演をお願いしました。

パターン・ランゲージは、人間中心の情報システム構築の一般論としても、重要なアプローチと考えられます。Psytech に関心をお持ちの方々にとどまらず、広く情報システム構築に関係する皆様のご参加を期待しています。

記

日時：2017年9月13日（水）18：30～20：30

場所：専修大学 神田キャンパス（神保町）7号館7階 763教室

講師：岡田誠様（株式会社富士通研究所）

講演タイトル：「パターンランゲージの開発（仮題）」

参加費：不要

★参加ご希望の方はメールでお知らせください。

主査 三村和子（e-mail:kz_mimura■song.ocn.ne.jp）※■は@に置き換えてください。

～本研究会のテーマ設定について～

1. なぜ Psytech^{*1)}か

様々な分野で情報技術の活用が加速的に進んでいます。例えば、Fintech(Finance + Technology)、Agritech (Agriculture+Technology) という用語を見かけることが増えました。心理学の分野においても、同様の動きが予想されます。その際、Psytech が目指す世界はどのようなイメージなのでしょう。Psytech はどんな場面で活用され、どのように人々に浸透し、結果として何をもたらすのでしょうか。

心理学全般は、心のはたらきに着目し、様々な問題を解明することにより、幸福の実現を目指すものです。一方、心理に関わる事柄を部分的に捉え、安易に情報技術を適用することは大変危険なことであり、個人のみならず社会に深刻な事態を引き起こしかねないとの懸念があります。逆に、Psytech により新しい心理的支援の創造が想定され、人々の幸福に寄与する可能性もあります。個人の幸福に関わることであり、情報技術がもたらすメリット・デメリットを慎重に検討してゆく必要がありますが、このことについて日本では検討が進んでいないのが現状です。このような問題意識のもとで、本研究会では、基礎情報学^{*2)}を用いたアプローチを志向し、Psytech を情報システムとして捉え、そのモデルを人間中心の視点を据えて検討していきます。

基礎情報学の提唱者である西垣通先生は、情報技術の活用に関し以下のように警告しています。

「IT の進歩とともに人間と機械の活動は複合的に組み合わさっていくはずだが、IT エージェント（西垣先生による注：人間の代理機能をはたす IT）はあくまで人間社会の生命的ダイナミックスを補強する手段として用いられるべきなのである。」^{*3)}

2. なぜ、IS 技術者の心理的支援をテーマとするのか

インターネットの普及、IoT、AI 技術の進歩など、IS 技術者の人材需要は高まっています。社会において IS 技術者の役割が増す一方で、日本では IS 技術者は長時間労働ややりがい感の欠如等が問題視され、未来を担う輝かしい職種であるはずが現状はそうとは言えないようです。

IS 技術者の管理者の中には、IS 技術者が抱える心理的な問題は仕事上の成果に直接影響すると考え、具体的に対処する人も増えてきました。IS 技術者のメンタルヘルス上の問題解決について、一部の企業ではノウハウが蓄積されているところもあります。IS 技術者がやりがいを持って仕事をすすめられるかどうかについて、組織として配慮されるようになったことは喜ばしいことです。しかし、当学会で提唱するように、組織としてのプロジェクトマネジメント上で心理的問題を扱う「プロジェクト・メンタル・プロセス」^{*4)}を実践するには至っていません。そこで、本研究会では、IS 技術者の心理的状態を、基礎情報学で定義されている「心的システム」、「自己観察」の概念^{*3)}を用いて分析し、IS 技術者のための心理的支援にどのような可能性があるのかを検討し、IS 技術者のための Psytech として情報システムモデルを提示してゆきます。

*1)Psytech (サイテック) とは：IT 技術を使った新たな心理的支援。心理学を意味する“psychology”と、技術を意味する“technology”を組み合わせた造語

*2) 西垣通 (2004) 基礎情報学：生命から社会へ NTT 出版

*3) 西垣通ほか (2014) 基礎情報学のヴァイアビリティ：ネオ・サイバネティクスによる開放系と閉鎖系の架橋 東京大学出版会

*4)メンタル・プロセス・マネジメント：「新情報システム学序説 情報システム学会新情報システム学体系調査研究委員会編」において、プロジェクトマネジメントの機能、役割を構成するプロセスとして、従来の「プロジェクトマネジメント・プロセス」および「ソフトウェア・エンジニアリング・プロセス」に加えて、「プロジェクト・メンタル・プロセス」が重要であると示されている。